

私たちの病院は

- ①だれでも安心してかかれる病院
 - ②心の通いあう、あたたかい病院
 - ③地域の人々と共に歩む病院
- であることをめざします。

健康のかけはし

No.81

大田病院

2023年11月10日

〒143-0012 東京都大田区大森東4-4-14

☎ 03-3762-8421 発行責任者 渡邊 峰人

大田病院は基幹型
臨床研修病院です

地域包括ケア病床のご案内

大田病院

管理室

小林 太平

令和5年11月1日より「地域包括ケア病床」を新設しました。

○地域包括ケア病床とは

急性期治療を経過し病状が安定した患者様に、在宅や介護施設への復帰に向けた医療や支援をおこなう病床です。

一般病棟などで症状が安定した方のうち、在宅での療養に不安がある患者様や、もう少しの入院治療でご自宅や介護施設への退院、社会復帰ができる患者様のために、当院では「地域包括ケア病床」を準備し、安心して退院していただけるよう支援してまいります。医師や看護師、病床専従のセラピスト等により、在宅復帰に向けて治療・支援をおこないます。また、病床専任の退院支援看護師や相談員が、患者様の退院支援や退院後のケアについてサポートさせていただきます。

○地域包括ケア病床への入院について

患者様の状態などにより入院主治医が判断し、患者様とご家族様にご提案させていただ

きます。入院期間は患者様の状態によりますが、入室後60日が限度となっております。

①急性期治療を経過した方の入院↓高度な医療を提供する病院や、急性期病棟での治療を終えた方の入院

②在宅などで療養されている方の予約入院、緊急入院

③その他、地域包括ケア病床での受け入れが可能な疾患の方の入院

※当院では、糖尿病教育入院、大腸内視鏡検査、化学療法、胃ろうボタン交換、レスパイト入院などが対象です。

④在宅・生活復帰のための支援

(1)在宅復帰の準備と、必要な心身機能の回復↓必要な治療に加えリハビリや食事を食べるための訓練、口腔ケア、栄養指導、薬の調整など、院内の多職種によるチーム医療を行います。

(2)退院後に必要な在宅サービス等を受けるための調整↓退院支援看護師や相談員が中

心となって、在宅での生活に向けたサービス提供の準備を行います。

△患者様・ご家族の方へ▽

地域包括ケア病床は、入院時に計画した入院診療計画をもとに退院を支援する病床です。多職種協同のチーム医療で患者様やご家族のサポートをしていきます。心配や不明な点などがありましたら、当院スタッフへご相談下さい。

委員会紹介

薬事委員会は、病院で使用する医薬品の採用の可否を決定する委員会になります。

国内で販売されている医療用医薬品は2万品目ともなっていますが、一つの病院で、販売されている全ての医薬品の使用することは現実的ではありません。当院では、現在、約1500品目を採用しています。通常は、医師が採用申請を委員会に提出し、委員会で検討します。

委員会のメンバーは、医師、薬剤師、看護師、医療安全管理者、事務で構成され、主に、有効性、安全性、経済性の3点で採用の可否を決定します。

医療の進歩により、近年、よく効く薬が増えてきた印象を受けます。一方で、過去には「薬害」と言われる、薬によって患者さんの健康が害される事件が繰り返されてきました。医薬品は厚労省の審査を経て販売が認可されますが、医療機関でその医薬品を採用しなければ患者さんには被害はできません。病院独自の視点でしっかりと見極めることも重要となります。

薬事委員会 清水 健一



原水爆禁止世界大会に参加してみて

初めて原水爆禁止世界大会に参加しました。世界各国・地域からの参加もあり、広い世代の平和に対する関心の高さを実感しました。「被爆者とともに、核兵器のない平和で公正な世界を・人類と地球の未来のために」というテーマのもと、国や世代関係なく核廃絶や平和を願う発言がたくさん聞かれました。若い世代からは反核平和運動への活発な発言がありました。核兵器は無差別で非常に威力の高い破壊兵器です。使用すれば人類に壊滅的な被害をもたらし、放射性物質により深刻な障害や後遺症を残します。実際に原爆ドームに行き核兵器使用の悲惨さを自分の目で見て、二度と起きてはならないと思いましたが。被爆国である日本が非核化を宣言することで、国際的な平和と安全保障を向上させることにつながっていくとわかりました。この原水爆禁止世界大会では、たくさんの人が集まり、非核化を守ることを宣言すること、核保有国や国際社会に対して核廃絶の声を



届ける場でもあると思います。私自身、核兵器をなくすための活動につながることでよかったです。参加した活動が今後次世代にもつながり、より安全な世界になれば良いと思います。また、今困難を抱えているロシアやウクライナ等、様々な文化や宗教の人の意見を拝聴する機会がありました。特

第三回 旬のおつまみ

秋と、変わったメニューを

11月、秋を楽しみましょう。季節食材は、すじこ・シシャモ・マグロ・松茸・百合根・さつま芋・銀杏・柿。変わりメニューでマスカット使用。調理手順、作業工程は味付けなど割愛させていただきます。(スマホなどで、、、ペコリ<_>)



LLサイズの「銀杏」は、「水晶銀杏」に挑戦。殻を剥き薄皮をはぎ、ほんの少しの塩に純米酒と水を1対1の割合で炊き上げました。



「シシャモと柿の天ぷら」「柿とさつま芋のかき揚げ」は、すだちと塩で頂きます。

松茸を使って二品。かさの部分「松茸ご飯」に、残った軸と豆腐を土鍋で「お吸い物」。



すじこは、「いくらの醤油漬け」隠し味に紹興酒を。松茸ご飯にたっぷりとかけて、季節を召し上げ

夏の忘れ物、シャインマスカットを使った変わりメニューは鮭・トマト・きゅうりで「アヒボキ丼仕立て」と「酢の物」



ほんの一部の食材たち、、、秋って楽し～～！！



栄養科主任 調理師・山崎

に、2日目の分科会では核兵器を持つ側と持たない側の意見を聞くことができませんでした。今の世界情勢では核使用の危機は高まっており、核の脅しに負けず、安全で平和な世界をつくるために、原水爆禁止を訴え続けていくことが大切だとわかりました。今回原水爆禁止世界大会に参加して、核兵器廃絶をめざしている人のお話を聞けたこと、平和と安全保障のために活動できたことは、私の価値観を大きく変えるものになりました。この活動に参加したことで核兵器廃絶の実現に向けて少しでも近づき、将来の平和につながっていきたいと思いました。

大田病院 伊藤 彩夏



看護師 池田 裕香



今年は夏休みを利用して地元・香川県に帰省しました。1年ぶりの帰省だったので、家族や友人と久しぶりに会うことができるとてもうれしかったです。

今回は地元・香川県の魅力についてみなさんに紹介させていただきます。

やはり、香川県といえば「うどん」です。県内ではコンビニよりうどん店が多いと言われるほどたくさんあります。香川県にいたころは、毎週末お昼ごはんにいろいろなお店のうどんを食べに行っていました。どの店も出汁やうどんの硬さなどに特徴がありおいしいので、ぜひ香川県に行った際にはお気に入りのうどん屋さんを見つけてください。

また、香川県には観光スポットもたくさんあります。特に父母ヶ浜はウユニ塩湖のような写真が撮れる有名な場所です。実際に訪れるとその美しさに感動しました。

うどんだけでなく、たくさん楽しい場所もあるのでぜひ香川県に遊びに来てください！

次回は5病棟看護師 田中彩さんです。